



国の研究機関による 連携推進の取組

国立環境研究所
気候変動適応センター

「気候変動適応の研究会」について

- 気候変動適応法(平成30年法律第50号)及び気候変動適応計画(平成30年11月27日閣議決定)に基づき、気候変動適応に関係する研究機関との連携・協力体制を確保するため、国の機関又は独立行政法人で構成される「気候変動に関する研究機関連絡会議」及び「気候変動適応の研究会」を設置

気候変動適応法、気候変動適応計画

関係行政機関の緊密な
連携協力体制を確保する
(法第3条及び計画第4節基本戦略⑦)

気候変動適応推進会議

<議長>

環境大臣

<副議長>

環境副大臣

<構成員>

内閣官房、内閣府、金融庁、
総務省、外務省、財務省、
文部科学省、厚生労働省、
農林水産省、経済産業省、
国土交通省、環境省
防衛省

開催状況
等の報告

我が国の研究機関の英知を集約し、
情報基盤を整備する (法第11条及び計画第4節基本戦略③)

気候変動適応に関する研究機関連絡会議

目的

気候変動適応法及び気候変動適応計画に基づき、関係研究機関の連携協力を深めることにより気候変動適応の情報基盤を充実・強化し、国・地方公共団体による適応に関する施策や事業者・国民による適応に関する活動の支援の推進を図る

構成

気候変動等に関する調査研究または技術開発を行う国の機関または独立行政法人の代表者(理事クラス)

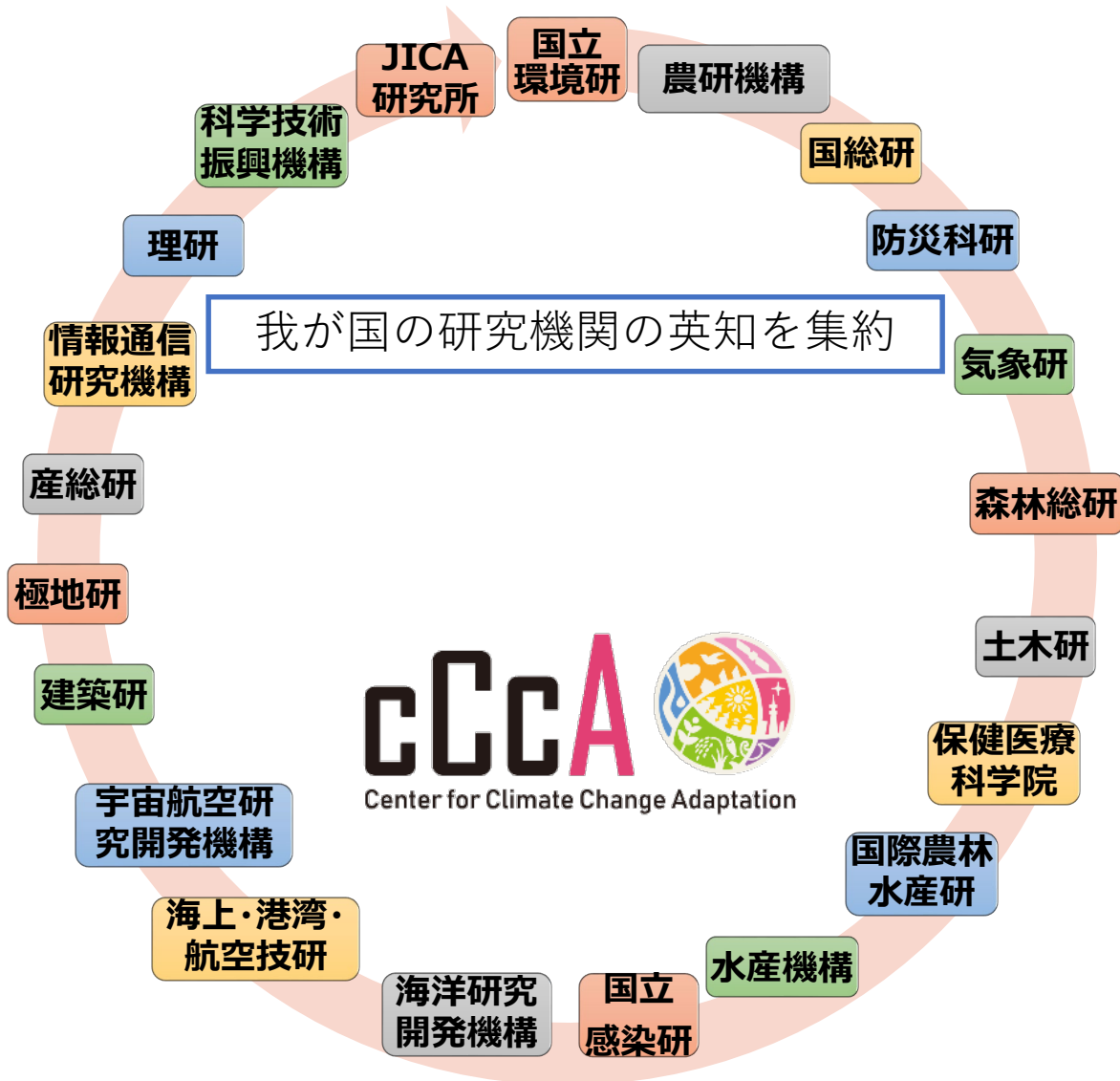
庶務

国立環境研究所

活動状況等の報告

実務者による「気候変動適応の研究会」

「気候変動適応の研究会」の参加機関



今年度の「気候変動適応の研究会」の活動について

気候変動適応の研究会 シンポジウム・ワークショップの開催

<当面の目標>

地域での気候変動適応の実践（いわゆる社会実装）を念頭に置きつつ、参加機関の具体的な連携を模索（共同研究・事業のフェージビリティスタディ案を作成）する

<シンポジウムとワークショップの目的>

- 本研究会の構成機関による最新の研究について情報交換を行うことを目的に、シンポジウムを開催する。
- 研究機関横断型の研究や事業の実施に向けたワーキンググループ設立の実現可能性を検討するため、ワークショップを開催する。

2月22日（火）PM：シンポジウム

2月24日（木）PM：ワークショップ

今年度の「気候変動適応の研究会」の活動について

シンポジウム

各研究機関から
テーマごとに研究
内容を発表いただ
いた。

気候変動

- 地域気候モデルによる気候予測の現状と課題（気象研）
- JAXA地球観測衛星による気候変動対応への貢献（JAXA）
- 気候変動研究におけるJAMSTECの取り組み（JAMSTEC）
- 気候モデルのダウンスケーリング研究（土木研）
- 理研におけるダウンスケーリング研究に関する取り組み（理研）

農林水産業	農研機構が取り組む気候変動適応研究と地域での連携・支援（農研機構）	沿岸域 自然災害	アンサンブル降雨予測を活用したダムの事前放流手法の検討（国総研）
	徳島県におけるワカメ養殖の現状と気候変動対策（水研機構・徳島県）		「炭素蓄積機能」等と両立させるための、森林による豪雨災害緩和機能を考慮した森林管理の提案（森林総研）
	気候変動適応型作物の創出技術の開発および活用（理研）		近年の大型台風による港湾の被害と今後の対策について（港空研）
産業・経済活動、国民生活・都市生活	将来の再生可能エネルギーの主力電源化と課題整理（産総研）	水環境・水資源	気候変動による水道原水水質への影響（保険医療院）
健康	気候変動の病原体媒介節足動物への影響（感染研）	自然生態系・自然環境	里山林による農業気象災害軽減事例（防災科研）
	気候変動が暑熱健康に及ぼす影響（環境研）		八甲田の標高傾度にしたがった、ブナとオオシラビソの落葉分解実験（森林総研）
国際	アジアモンスーン地域における気候変動対策技術のための国際共同研究（国際農研）		ネットゼロ社会の達成に資する森林吸収源の評価（森総研）
	JICAの気候変動対策に係る戦略（JICA研）	サンゴ・藻場群集の気候変動影響と適応策（環境研）	

今年度の「気候変動適応の研究会」の活動について

ワークショップ

各分科会は幹事機関の進行の下、有志でワーキンググループを立ち上げて、共同研究・事業を行うと仮定して、半年から1年のフィージビリティスタディを実施するとすれば、どの機関と、何について、どこを対象に、どのようにするか意見交換し、「ワーキンググループ立ち上げの実現可能性」としてまとめる。

テーマ	分科会 1 「短中長期シームレス 将来予測、不確実性」	分科会 2 「農業」	分科会 3 「Eco-DRR、 森林、獣害」
フィールド案	全国	全国	那須高原、京都盆地、 八甲田山
幹事機関	理研	農研機構	環境研
参加機関	気象研、土木研、産総研、 極地研、JAMSTEC、JST、 港空研、環境研、JAXA、 水研機構 【地域センター】 長野県	理研、国際農研、産総研、 JAMSTEC、気象研、JAXA、 水研機構、環境研 【地域センター】 北海道、長野県、大阪府	森林総研、防災科研、産総 研、気象研、JAXA 【地域センター等】 那須塩原市、栃木県、京都 府市、長野県、岐阜県、大 阪府、道総研

今年度の「気候変動適応の研究会」の活動について

ワークショップ

テーマ	分科会 4 「海」	分科会 5 「領域気候モデル（山岳）、 ダウンスケーリング」	分科会 6 「暑熱、健康、都市」
フィールド案	瀬戸内海、大阪湾	中部山岳、大雪山	埼玉県
幹事機関	JAMSTEC	気象研	産総研
参加機関	港空研、JAXA、水研機構、 気象研、環境研 【地域センター】 大阪府	理研、森林総研、産総研、 JAMSTEC、JAXA、環境研 【地域センター】 長野県、岐阜県、大阪府	理研、国総研、保健医療院、 防災科研、港空研、気象研、 JAXA、環境研、感染研 【地域センター】 埼玉県、北海道、栃木県、 長野県、大阪府、高知県

本日は分科会 1 「短中長期シームレス将来予測、不確実性」と分科会 4 「海」での議論についてご紹介。

分科会 1 「短中長期シームレス将来予測、不確実性」

議論のまとめ

まとめ：「WG立ち上げの方向へ」、今後具体化が必要

A) テーマ

- 短期中期予報について、ニーズやシーズに関する理解を深める。
- **シーズからニーズへ：予測技術の現状や将来見通し、原理的な限界をレビュー。**
 - 数週間、季節、数年後、5～10年後のそれぞれについて、どのような予測情報が提供可能か。
- **ニーズからシーズへ：具体的な利用ニーズに基づき予測情報に求められる要件を整理・可視化。**
 - 自治体（民間）におけるニーズの具体化。

B) 取り組み内容（対象地域、期間現象）

a. 評価ターゲット候補

- 暑熱、感染症、農業、漁業、災害リスク（水害）

b. 調査の方向性

- ある1つのターゲットに対して、**各時間スケールのデータがあったら、どう嬉しいのか、という視点**でまとめる（例：暑熱）
- ターゲットは利用者側にも自由に出してもらい、網羅的に調査する。

c. 調査の仕方

- アンケート：対象者はステークホルダー/自治体、民間企業

C) 最終プロダクト、目標

文書？：ステークホルダーの方にアンケートをとってニーズをまとめるだけでも意味がある + シーズに関するまとめ

分科会4 「海」

まとめ：陸域の関係者もまじえて「WG立ち上げを引き続き議論」

議論のまとめ

- ・ 情報交換の場として大事。
- ・ 海で閉じて議論していても解決しない問題が多くあるので、陸域側の関係者（農業、森林、河川、暑熱など）との連携を議論したい。
- ・ 食料生産に対しての気候変動の脅威などについて農業と水産の比較、どうバランスして適応していくと良いのか議論してみたい。
- ・ JAXAから衛星データや水研のモデルの成果などは、どうしてもスケールの話があって、湾のスケールでうまく使うのが難しいため、特定のフィールド（湾）で使えるように検討する必要。
- ・ 衛星データは状況把握・現況把握となるが、それを用いたモデルの検証など生態系モデルの改善に繋がれると良い。
- ・ 民間との連携では、ブルーカーボンについての注目度が高く、TCFD, TNFDなどの活動と連携できる可能性があるのでは